

令和4年10月24日

豊田市議会議長 板垣清志様

大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員長  
山田主成



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、豊田市議会委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

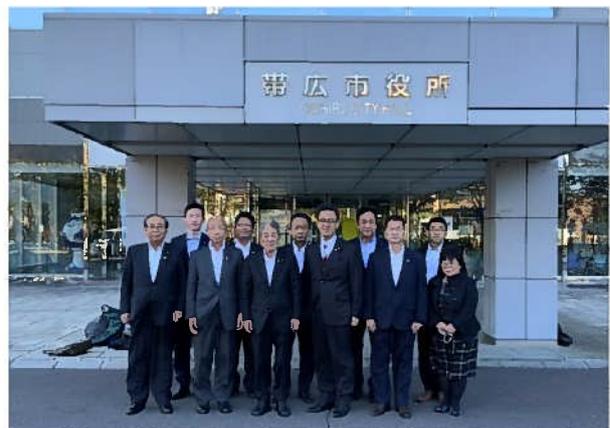
記

- 1 派遣期間 令和4年10月18日（火）から同月20日（木）まで
  
- 2 派遣場所 18日（火）…北海道帯広市／  
及び内容 ラリーを生かしたまちづくり  
19日（水）…一般社団法人札幌観光協会／  
大規模イベントの開催概要と課題  
20日（木）…札幌商工会議所／  
2030年冬季オリンピック・パラリンピックの招致に  
向けた取組
  
- 3 派遣委員 委員長 山田 主成  
副委員長 水野 博史  
委員 山口 光岳 羽根田 利明 中村 孝浩  
北川 敏崇 榎屋 小百合 山本 義勝  
杉浦 健史 近藤 厚司 中島 竜二
  
- 4 報告書 視察報告書のとおり
  
- 5 その他 随行者／柴田 啓佑、西村 達哉

視察報告書【1】

委員会名	大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員会	委員名	山田 主成
視察日時	令和4年10月18日（火）午後2時00分～午後3時30分		
視察先・概要	北海道帯広市 人口：164,378人 (R04.9.30現在) 面積：619.34km <sup>2</sup>		
視察内容	ラリーを生かしたまちづくり		
選定理由	帯広市では、平成15年から平成19年まで世界ラリー選手権が開催され、その後も各種ラリー大会が開催されている。帯広市のラリーを生かしたまちづくりの取組を視察することで、本市のまちづくりに生かす。		
豊田市の現状と課題	多くの来訪者が見込まれる大規模イベントを契機としたまちづくりを推進するため、情報発信等による機運醸成の方策や、官民連携によるイベントの強化と市内体制のあり方などについて調査研究を行い、市へ提言する。		
視察概要	<p>●ラリー大会の開催概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2004年から2007年の4年間、WRCが開催された。2004年大会の観客数は延べ21万1千人で、経済波及効果は100億円から120億円であった。</li> <li>・2007年大会を最後にWRCの十勝開催は行われていないが、アジアパシフィックラリー選手権として十勝での国際ラリー競技の開催が現在まで継続されている。</li> </ul> <p>●機運醸成の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会の成功には地元の理解・協力・応援が必須である。WRCでは、新聞に多くの記事の掲載し、住民の機運醸成を図った。地元の新聞やメディアを巻き込まなければ住民の機運醸成は難しい。</li> <li>・選手との交流会、サービスパークの見学会、市民を対象とした格安チケット販売など、WRCの際には市民がラリーにつながる取組に注力した。</li> </ul> <p>●経済波及効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滞在日数が長いと、宿泊施設、飲食、土産品、周辺の観光施設（ばんえい競馬場など）には、かなりの経済効果がもたらされる。</li> <li>・土産品やグッズの開発は慎重に行うべきである。WRCの際には、高いノベルティを払ってグッズを作ったが、スペシャルステージから遠いまちではあまり売れなかった。また、WRCの観客はラリー関連の土産品を多く買うが、2種類あるライセンス（正規品、完全なロゴマークではない安いもの）のうち安いライセンスのものは売れず、業者がかなりの不良在庫を抱えた。</li> <li>・観戦エリアの近くのコンビニやガソリンスタンドにとっては特需となる。</li> <li>・競技参加者がカー用品や工具を必要とするため、ホームセンターにとっても特需になる。また、自炊するチームもあるため、スーパーも特需になる。コンビニ、スーパー、ホームセンター、トイレなどの案内図が競技参加者に重宝されている。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WRC運営において想定外だったこと</li> <li>・旅行代理店がホテルの客室の一定数を押さえているため、空室があるにも関わらず観戦者が宿泊できない状況が発生した。</li> <li>・外国人選手の交通違反が多かった。また、文化や価値観、法令等の違いから、予想外のトラブルが頻発した。</li> <li>・観客の駐車違反等が多かった。</li> <li>・リエゾンの観客が赤信号で停車した競技車両に群がって写真を撮っていた。特に、手押し信号が問題で、押しっぱなしにされて大渋滞になったため、警察と協議して対策を施した。</li> </ul>
<p>評価とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯広市には、WRCを始めとしたラリー大会の開催・運営の実績が蓄積されている。</li> <li>・市民を対象とした格安チケット販売による観戦促進や、子どもたちへのPRなど、市民とラリーを繋ぐための様々な取組が行われた。</li> <li>・関係者や一部のファンだけが盛り上がるのではなく、多くの住民を巻き込んだ取組を行っている。</li> <li>・ラリーによって地域に多大な経済波及効果をもたらされる。</li> </ul>
<p>本市に反映できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実効性のある組織体制づくりが必要である。</li> <li>・豊田市がラリー大会を主催する際は、大会終了後に住民へのアンケート調査等を実施し、大会の評価・分析を行うべきである。</li> <li>・地元の新聞を活用したPRは市民の機運醸成に効果的である。豊田市においても取り組むべきである。</li> </ul>
<p>その他 (意見・課題など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人選手による交通違反や交通渋滞の発生が懸念されることが分かった。豊田市が大会を主催する際には、行政と民間が役割分担をして、交通対策に取り組む必要がある。警察との連携も不可欠である。</li> <li>・大会期間中の交通渋滞が住民への負担になると、機運醸成や継続的な開催は難しいため、交通対策にしっかりと取り組む必要がある。</li> <li>・WRCの開催によってどのくらいの人が豊田市を訪れるのかは、実際に開催してみないと分からない。最初は失敗するかもしれないが、反省点を次に生かし、継続することが大切である。</li> </ul>



## 視察報告書【2】

委員会名	大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員会	委員名	山田 主成
視察日時	令和4年10月19日（水）午後1時30分～午後3時00分		
視察先・概要	一般社団法人札幌観光協会		
視察内容	大規模イベントの開催概要と課題		
選定理由	一般社団法人札幌観光協会は、さっぽろ雪まつりなど多くの観光客が訪れる大規模イベントを開催している。大規模イベントの開催における官民連携体制、課題、市民の機運醸成の方策等を視察することで、本市のまちづくりに生かす。		
豊田市の現状と課題	多くの来訪者が見込まれる大規模イベントを契機としたまちづくりを推進するため、情報発信等による機運醸成の方策や、官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方などについて調査研究を行い、市へ提言する。		
視察概要	<p>●札幌観光協会の活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市内では、毎年、以下の6つの大規模イベントが開催されている。各イベントは実行委員会が組織されており、札幌観光協会は実行委員会の事務局として携わっている。</li> <li>・札幌観光協会の職員数は28名（うち正社員は14名）である。少人数で1年を通じて大規模イベントの準備に取り組むほか、ホームページの管理運営、観光案内所の運営を行っている。</li> </ul> <p>●大規模イベントの開催概要と課題</p> <p>（1）さっぽろライラックまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①開催時期 5月中旬～6月上旬</li> <li>②来場者数 69万9千人（令和元年度）</li> <li>③予算規模 歳入：10,496千円 ※うち公費負担4,100千円 歳出：9,813千円</li> <li>④内 容 大通公園等で様々な文化体験や展示を実施。</li> </ul> <p>（2）さっぽろ夏祭り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①開催時期 7月中旬～8月中旬</li> <li>②来場者数 200万4千人（令和元年度）</li> <li>③予算規模 歳入：52,436千円 ※うち公費負担14,000千円 歳出：51,169千円</li> <li>④内 容 ビアガーデンをメインとしたイベント。町丁ごとに会場を設け、4大ビールメーカーが出展している。</li> <li>⑤課 題 観光客へのPRの方策が課題である。</li> </ul> <p>（3）さっぽろオータムフェスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①開催時期 9月上旬～10月上旬</li> <li>②来場者数 234万6千人（令和元年度）</li> <li>③予算規模 歳入：58,411千円 ※うち公費負担33,000千円 歳出：55,842千円</li> </ul>		

④内 容

- ・「北海道・札幌の食」をテーマに、札幌市内や道内各地から旬の食材、ご当地グルメを一堂に取り揃え、北海道の食を全国に発信・PRするイベント。
- ・イベント会場は町丁ごとに区切られており、会場管理者が出店者を募り運営されている。出店者数が多い時点で合計350店である。
- ・会場管理者は実行委員会（事務局は札幌観光協会）がプロポーザルで選定している。プロポーザルは3年に1回行われる。来場者を飽きさせない工夫として、コンセプトの見直しを随時行っている。
- ・令和元年度には、道内他地区の4つのイベントと連携したスタンプラリーを実施し、他の市町村との連携や周遊を図った。

⑤経済効果 市内総消費額：475億円、生産波及効果：621億円（平成29年度 札幌市調査）

⑥課 題 北海道外の人への認知度が低いことが課題である。対策として、航空会社と連携して、機内誌への情報掲載等に取り組んでいる。

(4) さっぽろ菊まつり

①開催時期 11月上旬

②予算規模 歳入：5,898千円 ※うち公費負担3,000千円  
歳出：5,696千円

③内 容 菊の展示イベント。令和元年度以前は外国人観光客からも人気があった。

(5) さっぽろホワイトイルミネーション、ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo

①開催時期 11月下旬～3月中旬

②予算規模 歳入：124,481千円※うち公費負担115,850千円  
歳出：116,493千円

③内 容 イルミネーションイベントを全国で初めて開催したのが札幌市であり、昭和56年から開催されている。

(6) さっぽろ雪まつり

①開催時期 1月下旬～2月中旬

②来場者数 202万1千人（令和元年度）

③予算規模 歳入：562,193千円※うち公費負担427,913千円  
歳出：562,193千円

④内 容

- ・自衛隊・アーティスト・市民が制作する雪像や氷像を展示するイベント。コロナ前は国際雪像コンクールも開催されていた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内総消費額が 494 億円、生産波及効果が 650 億円の経済効果があった。(平成 29 年度調査)</li> <li>・札幌市は世界的に見ても降雪量が多い地域であり、年間で約 200 億円が除雪費に使われる。</li> </ul>
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じてイベントでにぎわうまちというイメージづくり。</li> <li>・観光協会がしっかりしている。</li> <li>・時代に合わせて形を変えながらイベントを形成しており、それが観客の増員に繋がっている。</li> <li>・札幌市の魅力発信という明確な目的をもってイベントを開催している。</li> <li>・経済波及効果などイベントごとの分析がしっかりとされている。</li> </ul>
本市に 反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市には大通公園という様々な大規模イベントを開催できる場所・会場がある。豊田市においてもそのような空間を創設することが大切である。</li> <li>・イベントを継続開催することの大変さと重要性を感じた。豊田市でのWRCも継続することでまちづくりに繋がる。</li> <li>・札幌観光協会は自分たちの役割や守備範囲を自覚しており、それが強みとなっている。豊田市においても、ツーリズムとよたの役割を明確にする必要があると感じた。</li> </ul>



### 視察報告書【3】

委員会名	大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員会	委員名	山田 主成
視察日時	令和4年10月20日（木）午前9時30分～午前11時00分		
視察先・概要	札幌商工会議所		
視察内容	2030年冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けた取組		
選定理由	札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明したことを受け、札幌商工会議所は冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会を設立し、官民を挙げて様々な招致活動を展開している。大規模イベントの招致のねらいや、市民の機運醸成の方策等を視察することで、本市のまちづくりに生かす。		
豊田市の現状と課題	多くの来訪者が見込まれる大規模イベントを契機としたまちづくりを推進するため、情報発信等による機運醸成の方策や、官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方などについて調査研究を行い、市へ提言する。		
視察概要	<p>●招致のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1972年の冬季オリンピックは、地下鉄の開通・地下街の開業・高速道路の開通・橋梁の新設・競技施設の新設など、札幌のまちづくりの起爆剤となった。また、さっぽろ雪まつりの様子も全世界中に放映されたため、国内外から多くの観光客が訪れるようになり、国際観光都市としての地位が確立した。</li> <li>・2030年オリンピック・パラリンピックの招致のねらいは、人口減少・高齢化社会への対応、スポーツを通じた健康寿命の延伸、バリアフリー化による共生社会の実現、ゼロカーボン都市の実現など、次の100年に向けた持続可能なまちづくりの促進を図ることである。</li> <li>・経済効果は、札幌市で3,500億円、北海道全体で4,500億円と試算している。</li> <li>・1972年大会の際に整備されたインフラが老朽化しているため、2030年大会に向けて更新を進めていく。また、北海道新幹線延伸の早期実現を図る。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックによって札幌市を世界中にPRすることで、観光産業の底上げを図る。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックによって子どもたちの郷土愛を育みたい。</li> </ul> <p>●冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会での取組と官民連携体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会は、市民の機運向上を図り、大会の招致を実現することを目的とした組織である。札幌商工会議所が事務局を担っている。</li> <li>・取組状況としては、商店街でのポスター・のぼり旗の掲示、さっぽろ夏まつりや北海道マラソンを始めとした様々なイベント</li> </ul>		

	<p>におけるPRグッズの配布、オリンピック選手による中学生向けの講演会などを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携体制としては、ビルやホテルにポスターを掲示したり、約8,000台のタクシーにPRステッカーを貼付したりするなど、業界団体と連携して招致活動をPRしている。また、プロスポーツチームとも連携して試合会場にブースを出展し、チラシやうちわなどのPRグッズを配布している。</li> <li>・これらの取組の際には、アンブッシュマーケティングに注意する必要がある。アンブッシュマーケティングとは、公式スポンサーではない企業がそのイベントを想起させるような訴求方法でサービス等を行うことである。</li> </ul> <p>●市民の機運醸成の方策と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年3月に市民1万人を対象としたアンケートを実施した。郵送での回答者の52%、インターネットでの回答者の57%、街頭での回答者の65%が、オリンピック・パラリンピックの開催に対して賛成という結果だった。</li> <li>・賛成理由は、子どもたちに夢や希望を与えることができること、北海道や札幌のPRにつながることで、雇用創出・経済効果が期待されることなどが挙げられた。また、反対理由としては、他の施策（除雪作業）に注力すべきだということ、開催に多額の予算が必要だということ、新型コロナウイルス感染症の不安があることなどが挙げられた。</li> <li>・オリンピック・パラリンピック招致を応援してくれる「サポーターズクラブメンバー」を募集し、機運醸成を図っている。開始から3か月で10万人以上の登録があった。</li> <li>・今後の取組の方向性としては、開催の意義・価値やコストについて市民に丁寧に説明し、理解を得ることで、更なる機運醸成を図っていく。</li> <li>・クリーン大会宣言を行うことで、国民からの信頼獲得を図っている。</li> </ul>
<p>評価とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりやインフラ整備という明確な目的・ビジョンをもって招致活動を行っている。</li> <li>・市民を巻き込んだ招致活動が行われている。招致の段階から市民を巻き込むことが重要である。市民へのアンケート調査という手法は、機運醸成やPRとして有効な手段である。</li> <li>・出前講座やワークショップを通じて招致活動への理解を促進するとともに、アンケート調査で市民の大会への期待や懸念を把握し、柔軟に対応している。</li> <li>・招致を通じて北海道や札幌市の魅力を発信している。</li> <li>・国際的な大規模イベントの招致には、官民連携による機運醸成が必要である。</li> </ul>

本市に  
反映できること

- ・大規模イベントの開催を、目的ではなく手段として捉えるという点は、豊田市も見習うべきである。
- ・豊田市がWRCを主催する際には、アンブッシュマーケティングへの注意が必要である。

